

レーザー水準器の活用

村田 秀夫

東京都歯科技工士会所属 歯科技工士生涯研修 5 期修了 あすか Labo



筆者は日曜大工を趣味としているので、数年前からレーザー水準器は使用していたが、これを模型に 照射する発想はなかった。本誌 10 月号高橋氏掲載 論文の写真からヒントを得て自分なりに試した。

高価だったレーザー水準器だが、最近ではインタ

ーネット販売で数千円から入手できる。その中から 十字型,またはラインを照射できるものを選ぶ。一 般には赤色光線であるが、視認性に優れる緑光線も ある。あまりにも安価なものは直線ではなく湾曲や 太すぎる場合もあるので注意が必要である。

fig.]



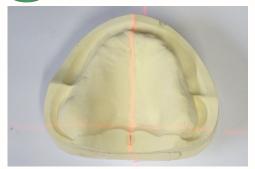
排列した位置は模型上ではどこなのか、簡単に確認できる。

fig.2



歯槽頂線の確認は従来、勘に頼らざるを得なかったが、 基準線に対して確実に検証できる。

fig.3



作業模型の凸凹面に線を引く作業が難しいのは誰もが 経験することだが、レーザー光をガイドにすると確実 である。

fig.4



筆者のラボでは、真上から照射できるよう作業机正面の棚に固定し、卓上の模型に照射している。

(写真は棚上方から撮影)

fig.5



●問い合わせ先 村田 秀夫(むらた ひでお) e-mail:asuka-d@amy.hi-ho.ne.jp

重要:レーザー光が目に入ると後遺症が残るケースもあることから、使用にあたって保護メガネ着用など十分に注意すること。